令和2年 教育委員会第21回定例会 会議録

日時 令和2年12月22日（火）

午後3時00分～午後4時37分

場所 教育委員会室

議事日程

第1 報告

【子育て推進課】

(1) ひとり親世帯臨時特別給付金の再給付について

【児童・家庭支援センター】

(1) 番町小学校内学童クラブ及び番町小学校放課後子ども教室（遊び）運営事業者の選定結果について

【学務課】

(1) 千代田区立学校における新型コロナウイルス感染症対策等ガイドラインについて

【指導課】

(1) 令和2年度千代田区小学校「達成度調査」の結果について

(2) いじめ、不登校、適応指導教室の利用状況（11月）

(3) 令和2年特別区人事委員会による報告について

第2 その他

【子ども総務課】

(1) 教育委員会行事予定表

(2) 広報千代田（1月5日号）掲載事項

(3) 教育広報かけはし第123号の発行

出席委員（4名）

教育長職務代理者	金丸 精孝
教育委員	中川 典子
教育委員	長崎 夢地
教育委員	俣野 幸昭

出席職員（11名）

子ども部長	清水 章
教育担当部長	佐藤 尚久
子ども総務課長	大谷 由佳
副参事（特命担当）	大塚 光夫
子ども支援課長	新井 玉江
子育て推進課長	中根 昌宏
児童・家庭支援センター所長	安田 昌一

子ども施設課長事務取扱 子ども部参事	小池 正敏
学務課長	小原 佳彦
指導課長	佐藤 友信
統括指導主事	田中 博

欠席委員（0名）

欠席職員（0名）

書記（3名）

総務係長	江口 友規
総務係員	橋本 悠
総務係員	濱本 美那

金丸教育長職務代理者

それでは、時間になりましたので、教育委員会を始めさせていただきたいと思いますが、開会に先立って、本日、傍聴者から傍聴申請がありましたので、傍聴を許可していることをここにご報告しておきます。

それでは、ただいまから令和2年教育委員会第21回定例会を開催いたします。

本日の教育委員の欠席はございません。

本日の署名委員は、中川委員にお願いいたします。

中川委員

はい、承知しました。

◎日程第1 報告

子育て推進課

- (1) ひとり親世帯臨時特別給付金の再給付について

児童・家庭支援センター

- (1) 番町小学校内学童クラブ及び番町小学校放課後子ども教室（遊び）運営事業者の選定結果について

学務課

- (1) 千代田区立学校における新型コロナウイルス感染症対策等ガイドラインについて

指導課

- (1) 令和2年度千代田区小学校「達成度調査」の結果について
(2) いじめ、不登校、適応指導教室の利用状況（11月）
(3) 令和2年特別区人事委員会による報告について

金丸教育長職務代理者

それでは、早速、日程に入りたいと思いますが、まず、日程で、皆様方の

子ども総務課長

お手元に入っている1ではなくて、その前に、現状のコロナの感染状況についてのご報告を総務課長からさせていただきます。よろしくお願いします。

はい。子ども総務課長です。

千代田区学校園関係での新型コロナウイルスの感染が判明して、その後、接触者検診に至った事案について、報告をさせていただきます。

1件目は、区内保育園でございます。12月8日に園児から新型コロナウイルスに感染していることが判明し、保健所の指導の下、保健所が調査を実施し、園児全員プラス職員にPCRの検査を実施し、こちらについては、全員陰性というようなところで結果が出ている状況でございます。

2件目は、12月18日に陽性が判明した事案でございます。こちらは、区立学校でございます。こちら、陽性が判明した後、保健所による調査を実施し、接触者検診を行って、こちら、全員陰性ということが判明しているところでございます。

続いて、12月19日に陽性が判明した事案でございますが、こちらについては、今、検査を実施中でございまして、詳細が判明次第、ご報告さしあげたいと思います。

説明は以上です。

金丸教育長職務代理者

はい。ありがとうございます。

ただいまのご説明について、ご意見はございますでしょうか。よろしいですか。

(なし)

金丸教育長職務代理者

今のところの結果としては、よそに感染していつている状況ではないということなので一安心ですが、まだ1件検査中のところがありますので、影響がないような状況であることを祈りたいと思います。

それでは、続きまして、ひとり親世帯臨時特別給付金の再給付について、子育て推進課長からご説明をお願いいたします。

子育て推進課長

はい。子育て推進課長です。

では、教育委員会資料をご覧ください。ひとり親世帯臨時特別給付金の再給付についてです。

国は、12月8日に新型コロナウイルス感染症の現状に鑑みまして、この特別給付金の再給付を、国庫補助事業として、全国の自治体で実施する決定をいたしました。当千代田区でも、その国の決定を受けまして、再給付を実施することといたしております。

目的につきましては、8月の末に給付したひとり親の臨時給付金と同じでございます。

2番が対象者のところですが、若干詳しく説明をいたします。この特別給付金の再給付は、前回、8月末に給付したときの基本給付のみとなります。前回の基本給付を受給した方は、既にお名前や振込先の口座を全て把握しておりますので、今回は、基準日現在で基本給付を既に受給した方を対象に再給付いたします。全ての方が、まず、手続は不要となります。

では、前回の基本給付を受けた方というのは、要件は何だったのかというところが2番のところの(1)から(3)で書いてある方々になります。今回は、12月11日現在でということがありますので、12月12日以降に、例えば、離婚されて、ひとり親になられた方で、一定程度の収入しかない方で、コロナウイルスの影響で失業してしまって、大きく家計の状況が変わったというような方がいらっしゃれば、申請を頂ければ、前回分と今回分を併せて給付することとなっております。なお、前回の給付は2月の末日まで申請期間が可能となっております。

金額、そして、給付の時期等は、資料に書いてありますとおりとなります。

なお、今回のこの事業につきましても、前回同様、予備費を活用して執行することといたしております。

説明は以上です。

金丸教育長職務代理者

ありがとうございます。

ただいまの説明について、ご意見、ご質問等がございましたら、お願いいたします。

俣野委員。

俣野委員
子育て推進課長

前回は、大体、総額でどのくらいだったのでしょうか。

子育て推進課長です。

前回は、基本給付の部分につきましては、210名で、おおむね1,300万円です。それ以外の、資料の2、(1)と(2)に該当する追加給付の方も、収入が大きく変わっていた場合は、さらに5万円給付しますという追加給付が前回はありましたので、その部分がおおむね350万円ぐらいです。

俣野委員
子育て推進課長

何名ぐらいで。

すみません。追加給付の対象者の人数については、持ち合わせておりませんが、追加給付は5万円ですので、単純に割りますと、60人程度だと思います。

俣野委員
金丸教育長職務代理者

分かりました。ありがとうございました。

1点だけ確認させてください。

給付手続については、申請不要とは書いてありますけれども、前回受けなかったけれども、その後に、この要件に満たった方は受けられるわけですね。だから、原則として、申請は不要だけれども、申請をしなければいけない人もいと理解すればよろしいですか。

子育て推進課長

子育て推進課長です。

はい、おっしゃるとおりです。前回のときに申請をしていない方は、今回申請しないともらえないという状況になります。

金丸教育長職務代理者

ありがとうございます。

ほかには何かご質問はありますか。

どうぞ、長崎委員。

長崎委員

前回の基本の給付が来年の2月までで、今もまだ申請ができるということ

だったのですけれども、この今回の再給付に関しては、12月25日が給付時期ということで、これを過ぎてしまうと、申請できないということでしょうか。

子育て推進課長

子育て推進課長です。

説明が分かりづらく申し訳ございません。今までもらってなくて、今回申請することによって初めてもらう方につきましては、頂いた申請を書類審査しまして、おおむね1か月後ぐらいに給付する形になります。ですので、本来、基本給付は2月末までですので、1月の末、2月の頭に離婚されてしまい、例えば、年末年始の勤め先が万が一倒産してしまったなどで、収入がなくなっているというような状況が年末年始で生まれていれば、1月に入った段階で申請していただくことで、1か月後ぐらいに給付となります。

長崎委員

分かりました。ありがとうございます。

金丸教育長職務代理者

はい。ほかにはございませんか。もしないようでしたら、次に移りたいと思います。

(なし)

金丸教育長職務代理者

次は、番町小学校内学童クラブ及び番町小学校放課後子ども教室（遊び）事業の運営事業者の選定結果について、児童・家庭支援センター所長からご報告をお願いいたします。

児童・家庭支援センター所長

はい。児童・家庭支援センター所長でございます。

それでは、番町小学校内学童クラブ及び放課後子ども教室（遊び）事業の運営事業者、こちらの選定結果につきまして、ご報告を申し上げます。

こちらの決定をした日につきましては、12月2日でございます。選定委員会、子ども部長を委員長とする外部委員3名、そして、児童・家庭支援センター所長から成る選定委員会で選定をいたしました。

3者から応募がございまして、選定をされた事業者は、株式会社日本保育サービスでございます。こちらの事業者につきましては、既に千代田区内で二番町こどもクラブ、麴町こどもクラブという2か所の私立学童クラブを運営している事業者でございます。

事業の概要は、来年の4月1日開設で、定員40名程度、これは学童クラブ1単位として40名ということでございまして、番町小学校内は、2つ学童を設けてございますので、それぞれ40名の定員という想定でございます。

なお、ご参考までに、審査結果の配点並びに1位から3位までの選定の合計点を資料に記載してございます。

本件につきましてのご報告は以上でございまして、併せて、口頭でございしますが、今後の私立学童クラブの整備につきまして、情報提供でご報告を申し上げます。

まず1点目は、前回ご報告を申し上げました（仮称）外神田一丁目公共施設内の学童クラブ、運営事業者はベネッセスタイルケアに決定いたしました。こちらの名称が「ベネッセ万世橋学童クラブ」に決定をさせていただき

ます。

そして、2点目でございますが、かねて、私どもも課題として認識をして追求してまいりました麴町地区に、新たに私立学童クラブを開設する件につきまして、具体には、九段小付近に開設をするということで、本年7月から9月にかけて、公募型で募集をいたしました。提案に至らず、その後、提案方式という形に切替えをいたしまして、先般、1者から具体的な提案が寄せられました。来る1月6日に選定委員会を開催いたしまして、この選定委員会で基準点の6割をクリアすれば、この事業者に決定をいたしまして、4月開設に向けて進めてまいります。

また、こちらの運営事業者が決定いたしましたら、次回の教育委員会で改めて詳細をご報告を申し上げます。

ご説明につきましては、以上でございます。

金丸教育長職務代理者

ありがとうございます。

今のご説明に対して、質問、ご意見がございましたら、お願いいたします。

俣野委員。

俣野委員

先ほど九段小付近ということだったのですけれど、具体的には、もう候補地は決まっておるのですか。

児童・家庭支援センター所長

はい。児童・家庭支援センター所長です。

本件につきましては、提案事業者から物件を調達した上で、提案をしていただくという条件になっておりますので、九段小の付近に物件を見つけていただいて、ご提案をいただいているというものでございます。

俣野委員

はい。ありがとうございます。

金丸教育長職務代理者

ほかには何かご質問ございますでしょうか。

すみません。私から1点。

先ほどご説明の中で、番町小学校のところには2つ学童があるとおっしゃいましたよね。この今回の選定というのは、その2つの学童ともにとということなんでしょうか。

児童・家庭支援センター所長

はい。児童・家庭支援センター所長です。

おっしゃるとおりでございます。2つの学童をともに、同じ事業者で運営をしていただくという想定でございます。募集をかけたものでございます。

金丸教育長職務代理者

ほかには何か。

どうぞ。

中川委員

今まで番町小学校内に2つあったわけですよね。

児童・家庭支援センター所長

はい、そうです。

中川委員

それが、今回は新しく選定するというのは、今までの運営の時期がもう終わってしまったからということなんでしょうか。

児童・家庭支援センター所長

はい。児童・家庭支援センター所長です。

今までの運営事業者から、今年度いっぱい、こちらの事業の運営を辞退

しますという申入れがございまして、改めて4月からの新しい運営事業者を募集したという経過でございます。

中川委員

それと、もう一点、「学童クラブ及び」の後なのですけれども、放課後子ども教室（遊び）事業というふうになってはいますが、この遊び事業というのは、どういう性格のものなんでしょうか。

児童・家庭支援センター所長

児童・家庭支援センター所長です。

こちらにつきましては、番町小学校の全ての児童を対象として、放課後の居場所づくりとしての事業を午後5時まで実施しております。遊びのほかに、学びというのがございます。遊びは主に校庭や体育館などを使いまして、いわゆる指導員が遊びということ子どもたちに展開をしてまいりまして、学びは学びで、ランチルームや特別教室を使用いたしまして、学習の機会を提供していると。これは、学びについては、また別の事業者が運営をしているというものでございます。

中川委員

そうすると、今回は、新しい事業者がいろいろ応募してきたわけですが、今おっしゃっていた学びとはまた違う方が運営しているのでしょうか。

児童・家庭支援センター所長

はい。こちらは、番町小学校内の学びにつきましては、神田外語学院という事業者が運営をしているという実態でございます。

中川委員

それは変わらないということですか。

児童・家庭支援センター所長

はい。こちらにつきましては、まだ契約が残っておりますので、変わりません。

中川委員

分かりました。

金丸教育長職務代理者

ほかには何かございますでしょうか。

俣野委員。

俣野委員

今ほど、前の事業者の方が一応辞退されたというふうなことをおっしゃっていたのですけれども、再任ということではなくて、辞退されてしまうという事は間々あるのですか。

児童・家庭支援センター所長

児童・家庭支援センター所長でございます。

そういったことは、あまりないと認識をしております。

俣野委員

そうすると、何か特段の理由というのがあったのでしょうか。

児童・家庭支援センター所長

やはり運営事業者さんのご事情でございまして、具体的にどういふご事情かというのは、もちろん我々も認識をしております。そこは、当然、運営事業者さんにヒアリングをして聞いております。ただ、具体的な内容につきましては、今のこの公の会議では、いわゆる運営事業者さんの個別具体的な情報ということになりますので、ご回答は差し控えさせていただきます。後ほど、場合によっては、情報はご提供申し上げます。

俣野委員

分かりました。

では、その状況がもし次の事業者も同じようなことで辞退ということになるといけないので、後で教えてください。

児童・家庭支援センター所長

はい。基本的に、今現在やっていただいて、辞退をさせていただいている事業者につきましては、これまでも全く問題なく、非常に円滑に実施をしてい

ただきまして、また、今後も別の学校で引き続き運営をしていただく事業者さんでございまして、私どもとしても、全くその事業者さんについては問題はないという認識でございます。

ですから、改めて申し上げるのは、事業者さん側の事情により辞退をするというものでございまして、そこは、客観的に全く問題のない理由であるという認識で、改めて新たな事業者を公募いたしました。

俣野委員
金丸教育長職務代理者

はい、分かりました。

よろしいでしょうか。

ほかには何かご質問等、よろしいですか。

(なし)

金丸教育長職務代理者

それでは、ただいまの件につきましては、これまでとしまして、続きまして、千代田区立の学校における新型コロナウイルス感染症対策等ガイドラインについて、学務課長からご説明をお願いいたします。

学務課長

はい。学務課長です。

それでは、千代田区立学校における新型コロナウイルス感染症対策等ガイドラインについてご報告いたします。

学校における新型コロナウイルス感染症対策につきましては、基本的には、文部科学省及び東京都からの通知やガイドライン、マニュアル等を参考、準用いたしまして対応しておりますが、今月、千代田区立学校における新型コロナウイルスガイドラインを策定いたしましたので、ご報告するものでございます。

まず、1ページには、基本的な方針及びⅠ、「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準と感染レベルを記載しております。現在の感染レベルにつきましては、資料の最後に判断基準を定めておりまして、2相当と判断しております。

また、2ページから4ページにかけましては、Ⅱ、学校における対策として、1、登校時の健康観察等、2、基本的な感染対策、3、教育活動等における感染対策、4、感染者等が発生した場合の対応、5、退院の基準を記載しております。

また、同じく4ページには、Ⅲ、家庭における感染予防等、Ⅳ、教育委員会の役割を、5ページには、参考としている国及び東京都の通知等の一覧を記載しております。

なお、全体の内容といたしましては、国等のマニュアルを参考に、マスクの着用、手洗いの徹底等、基本的な対策を中心に、また、児童・生徒が感染した場合の出席停止等、事務処理的なマニュアルとなっております。また、策定に当たりましては、全校園長会、全部の校園長会の先生のご意見を伺いながら、策定したものとなっております。

ご報告は以上です。

金丸教育長職務代理者

はい。ありがとうございます。

ただいまのご説明について、ご質問等がございましたら。

長崎委員 どうぞ。

12月7日現在では、今、レベルが2相当ということですが、それから何日間かたって、まだ2を継続しているという判断でよろしいでしょうか。

学務課長 はい。学務課長です。はい、そのように考えております。

この感染レベルなのですが、今回の千代田区のガイドラインは、文部科学省が定めているマニュアルから抜粋ということで、1ページ目にレベル1から3と基準を定めさせていただいております。厳密に、例えば2ということで、言葉として「相当」という形はしているのですが、断定した場合には、今でも感染対策はしておりますが、かなりの感染対策の徹底が必要になるということになります。また、この感染レベルにつきましては、例えば、東京都の場合は、別に感染状況の4段階のモニタリング等を踏まえた判断や医療提供体制の4段階の判断、国においては、別途、分科会で判断しているような基準がいろいろあるという状況でございます。千代田区としては、まずは文部科学省としての3段階を基本にしつつ、基本的には、その状況を踏まえて、例えば1という判断をした場合に、東京都で感染者が増えている状況で1でいいのかというご意見等もありますので、今現在では、2相当として注意を呼びかけるということで、判断させていただきました。

7日現在というのは、この基準を策定したのが7日でしたので、繰り返しになりますけれども、今日現在でも2相当ということで判断させていただいて、例えば、これが、今後、さらに、どちらにいくか分からないのですが、感染者が減っていく状況になれば、また1という形に戻したいと思っておりますし、場合によっては、2相当の「相当」を外して、2ということで、教育委員会にもご報告させていただき、そのような形での判断をさせていただければと思っております。

長崎委員 はい。ありがとうございました。

このレベルの決定というのは、どちらで対応しているのでしょうか。

学務課長 はい。学務課が担当しておりますけれども、単独で判断するというわけではなく、事務局と、最終的にはこの教育委員会で決定ということはあると思うのですが、保健所に相談しつつ、判断させていただければと思っております。

長崎委員 ありがとうございます。

金丸教育長職務代理者 はい。ほかには何かございますか。

では、私から幾つかお聞きしたいことが。

非常に細かく書いてあるので、逆に引がかかることが多くて、例えば、IIの1の(3)で、「また、学校長は、「健康チェック表」等で、教職員の健康状態を確認する」と書いてあるのですが、これは各学校に健康調査表というのが貼り出されていて、それでチェックするという趣旨なのでしょうか。

学務課長 学務課長です。

貼り出されているというよりも、各学校において、校長先生から各先生の健康カードのような内部的なものでチェック、検温している表と考えております。

金丸教育長職務代理者

それから、もう実に瑣末な話なのですが、その次の2の(4)で、「給食の前後等には、30秒程度かけて、水と石けんで丁寧に手洗いを行う」と。当然、それはやってしかるべきだと思うのですが、逆に、30秒かけて、子どもたちの人数を掛けると、給食時間がやけに短くなりそうな気がするのですが、それは大丈夫なのですか。水道が十分にあるという理解でよろしいのでしょうか。

学務課長

学務課長です。

はい。金丸先生がおっしゃるとおりなのですが、程度ということと、要は、数字が出ていますが、丁寧に手洗いをしてくださいという趣旨で記載させていただいておりますので、必ずしも30秒やらないと駄目だというわけでもないですし、水道についても、基本的には対応できるような状況になっております。

金丸教育長職務代理者

ありがとうございます。

それから、さらに、同じ2の(9)に「教職員の感染症対策については、基本的には、国のマニュアルに定める対応を行う」と書いてありますよね。その前には、「児童・生徒と同様に取り組む」というのが入っているので、児童・生徒と同様でない国のマニュアルにおける対応というのは、一体、何なのだろうかと実は思ってしまったのですが、例えば、どんなことを言っているのでしょうか。

学務課長

学務課長です。

今、具体的にこれというのはご答弁できなくて、大変申し訳ありません。国のガイドラインの中では、個別に教職員の感染症対策ということで書いてありまして、例えば、オンライン会議ですとか、業務に関してのということで、ご理解いただければと思います。

金丸教育長職務代理者

はい。全部私の質問で申し訳ないのですが、次の3の(1)の最初に、「支援が必要と思われる児童・生徒」と書いてあるのですが、これは具体的にはどういう方々を意味しているのでしょうか。

学務課長

学務課長です。

いわゆる通常学級の児童・生徒もいますし、特に、その中でも、個別に配慮が必要な児童・生徒も、学級も含めてですけれども、いますので、という趣旨でございます。

金丸教育長職務代理者

もし、そういう趣旨で見ると、その後の文章というのは、実は、コロナ対策ではなくて、常々必要な措置ではないですか。だから、これがコロナ対策とどう関係するののかと実は思ってしまったのです。コロナ対策の関係で、そういう子どもたちについて、特別に支援が必要な、さらにプラスアルファの状況があるというふうな理解なののでしょうか。

学務課長

学務課長です。

コロナ対策は、2の基本的な感染対策という部分があるのですが、例えば、特別に支援が必要でない児童・生徒についても、今までとは違って、手洗いを丁寧にしなくてはいけないという状況を踏まえると、支援が必要な児童・生徒については、さらにコロナ対策として配慮が必要だという趣旨で、記載させていただいているということでございます。

金丸教育長職務代理人

はい。では、続いて、同じ3項の(3)です。4行目から行きますと、「適切でないと思われる場合は、給食当番を代えるなどの対応をとる」と書いてあるのですが、その前の状況を見ると、何か給食当番を代えればいいのかという問題ではないのではないかと。要するに、例えば、保護者を呼んで、家に帰らせるとかという問題なのではないかというような疑問まで生じてしまうのですが、どんなような状況を想定されて書かれているのかを教えてくださいとありがたいです。

学務課長

はい。学務課長です。

この部分は、想定として記載しているとおりでいうことで、体調が悪い場合には、もちろん帰らせるという部分はあるのですが、当該の児童・生徒が先生からの指示に従わないような場合には、ほかの子にやってもらうというようなイメージで記載させていただいているということです。基本的には、給食の当番としての服装をしているかを確認した上での対応になりますが、その確認のときに不適切な場合、ほかの子に代えるという表現は、今後改定する方向でも検討したいと思っております。

金丸教育長職務代理人

続いて、今度は、自分の経験上で申し上げるのですが、4項の(1)に、「生徒の感染が判明した場合又は感染者の濃厚接触者に特定された場合」と書いてあるのですが、一般的には、濃厚接触者というのは、保健所が判定してくるのですが、実は、判定される前に、濃厚接触者に特定されるだろうということは、おおよそ分かるのです。例えば、身内に陽性が出ると、濃厚接触者になるだろうと分かるわけです。その段階でも、同じ措置でなければいけないのではないかと気がしたのですが、その点はどうなのですか。

学務課長

学務課長です。

そこは、保健所にまず相談していただくというのと、学校のほうには、当然、保健所のほうに連絡していただくのと、本人が例えば濃厚接触者だということであれば、出席停止という形で、欠席にはならない措置となりますので、安全を優先していただくという考え方でございます。

金丸教育長職務代理人

はい。ありがとうございます。

私からの質問は以上なのですが、ほかには何かございますでしょうか。

よろしいですか。

(なし)

金丸教育長職務代理人

それでは、この件については、これで終えさせていただきまして、次に、千代田区立小学校の「達成度調査」の結果について、指導課長からご説明をお願いします。

指導課長

はい。指導課長。お願いします。

それでは、教育委員会資料をご覧ください。令和2年度千代田区立小学校「達成度調査」の結果についてでございます。

調査の狙いにつきましては、記載しているとおりです。

2の実施日ですが、例年でありますと、学年スタートの4月の時期に実施をして、前年度の学習内容を把握しているか確認をし、学校の1年間の指導に生かしていくというようなことであるのですが、今年度は、4月、5月が休校状態であったために、9月の実施ということになりました。

対象学年及び教科につきましては、小学校4年から6年の国語、社会、算数、理科、4教科となっております。

これから報告する達成率につきましては、教科ごとに「おおむね満足」と言える目標値が設定してあります。テストを作成している業者のほうで設定をしているその目標値をどれぐらいの子どもが上回ったかというのが達成率という形で記しております。今回、5番に書かれてある集計結果で記させていただきます。

それでは、集計結果に入ります。

まず、資料に書いてあるグラフの説明ですが、緑色が区の前年度、前の年の4年生、すなわち今の5年生がどうだったか。赤色が今年度の千代田区。青が全国の大体の平均の値でございます。こちらは、調査を作成している会社が全国規模でデータを持っているので、このような記し方になっております。

ただ、4年生、5年生につきましては、社会科のところで、全国のデータがございません。これは、4年生、5年生の前学年に当たる3年生、4年生が、3年生であれば千代田区を学ぶ、4年生であれば東京都を学ぶというような仕組みになっておりますので、各自治体により学習内容、基本的な骨子は変わらないのですが、設問が変わってくるために、全国的な共通のデータは出さないという形になっているところ です。

では、資料(1)小学校4年生ですが、国語と算数につきましては、青い全国の平均を、赤い千代田区の今年度のこのデータは大きく10ポイント以上上回っているという形でございます。社会科につきましては、昨年度よりも高いポイント。ただし、理科につきましては、全国値を僅かに上回っているものの、前年度よりは下がっているという状態でございます。

(2)小学校5年生です。こちらにも、4年生同様に、国語と算数につきましては10ポイント以上、算数に至っては16ポイント以上ということで、かなり大きな達成率を上げております。しかしながら、理科は、本年度は昨年度よりもよいという状態ではあります。それほど大きく全国を上回るというような状態ではないということでございます。

裏面でございます。小学校6年生でございますが、こちらにも同様に、国語と算数につきましては、10ポイント以上上回っているという結果、全国値を上回っているという結果になりますが、社会科も全国値を上回るものの、理

科においては、全国値より若干下がってしまうという結果になっております。

これは、今年度に限らず、都の調査でも同様な傾向が見られ、毎年報告をさせていただいているところでございますが、要因としては、自然体験の少なさであるとか、環境の問題であるとかということもあるのかもしれませんが、さらに分析として今考えているのは、何かに興味を持つ、主体的にそれを学んでいく、計画的に実行する、目的をもって協働して学んで答えを出すといったような問題解決型の学習よりも、知識享受型のところに極端に偏っているのではないかということが、この全国的なことから言われるということに仮説を立てているところでございます。

これにつきましては、各教科での教員の指導を、授業改善を今言われている主体的・対話的で深い学びというものに変えていくのと同時に、子どもの主体性を重視した授業展開をつくっていくということや、子どもがより分かりやすい、そして、自分の問題を協議しながら解決していったというような過程の考えを養っていく必要があると考えております。それにおいては、今般導入をされました1人1台の体制を使った授業改善、授業改革が大きなポイントになってくるだろうということは、校長会等でも話しておりますので、今後、改善に生かされていければと考えているところでございます。

(4)、(5)は、同時に意識調査を行っておりますので、その中で、設問に対して、肯定的に回答したもの、肯定的に回答した割合を載せたものを、ピックアップして載せさせていただいております。

(4)につきましては、指導法の工夫改善が中心となる設問に対し、肯定的に回答した割合、(5)につきましては、ちよだみらいプロジェクトに掲載の設問に対し、肯定的な回答をした割合という形で見ています。ピンク色に囲っているところが、前年度経年変化で、向上した項目として記させていただきます。

全般的に、やはり8割より超えるというところを目標として目指すのであれば、自分が認められているとか、学校に行くのが楽しいというのは、8割を超えていますので、おおむねよいのかと思うのですが、その中に、そうではない子どもがいることも考慮しつつ、ここの指導には役立てていくというスタンスが必要であると考えております。

また、低い値としては、(4)の下から3番目、「私は、話し合いのときに、考えや意見を進んで出している」という項目は、だんだん年々、学年が上がるごとに下がっていき、もともとが高い値ではございません。こちら、今度導入した1人1台体制で、手が挙げられなくても、子どもが入力をする、何かアンケートに答えるといったような参画意識のある授業を構築していくことで、ここのところをカバーして、より自信を持たせることを心がけていきたいと考えております。

あと、4番の一番最後、「将来かなえてみたい夢がある」というところは、8割以上が持っているものの、6年生においては、前年度90.7%から

82.1に落ちていると。年を追うごとに夢がなくなっていくというのも、少し悲しい話ではございます。やはり教育は、大人に向かって、どのように力をつけていきたいのかというところを根源にしておりますので、そういったところが充実するような数値が出るように、学校が努力をしていけるよう、指導課も頑張っていきたいと考えております。

ご報告は以上です。

金丸教育長職務代理者

ありがとうございます。

ただいまのご報告について、ご意見、ご質問がありましたら。

長崎委員。

長崎委員

指導課訪問などで、理科の授業、研究発表などでも、理科の実験の授業を見る機会が今年度も何度かあって、大体、実験というのはグループ単位で行っているのですが、各グループ、先生の話を中心に聞いていないのか、思ったような結果に結びつかない実験というのも見られて、何で失敗したのかを考察する前に、授業時間が終わってしまって、その時間内に追い求めなければいけないところまで行かないで、次の時間になってしまっているのかと感ずるので、ここは落とせないというような実験などは、例えば、理科も2時間分取って、ゆっくり丁寧に、グループも少なめにして、各自が責任感を持って授業、実験ができるような環境づくりというのにも良いのではないかと授業を見ていて思っています。

以上です。

指導課長

指導課長です。

ご指摘ありがとうございます。まさに、そのとおりでございます。

研究授業で理科の実験をやるというのは、実は難しい話なのです。少しやはり時間が足りないというのが実情で、ある程度、セットをしておいて、45分で見せていただくパターンが多いのかと思います。実際には、やはり2時間またぎで理科を計画して組んでいることは、教員も頑張っているのかと思いますし。逆に、そのようにある程度ゆとりを与えて、準備も自分で考える。推論も自分で行う。最後の考察ももっと子どもたち同士議論する。そんな時間をしっかり持つていくことが、今後、ますます重要になってくると思います。ありがとうございます。

長崎委員

ありがとうございます。

金丸教育長職務代理者

ほかには何かございますでしょうか。

では、私から1点。小学校5年の理科のデータというのは、1年前の小学校4年のデータの子どもたちが対象になるということだと思いますよね。そういうふうを考えて見てみると、4年のときに、これだけ達成度が高かった生徒たちのグループが、要するに千代田区だけではなくて、全国区も含めて、これだけ落ちてしまうというのは、5年になったときに、理科の授業の内容が一躍難しくなってしまうとか、そういうことが裏側にあるのでしょうか。

指導課長

指導課長です。

ご指摘のとおり、3年、4年、5年の間には、算数も含めてなのですから

ども、大きな壁があります。それは、具体から抽象への壁なのです。具体的な操作でこなせていたものが、より目の前にあるものではないものを想像しながら、想定しながら、というところが深く求められてくるという形になります。ですので、4年生のとき、3年生の理科は割と単純で、学力は、逆に言うと、本当の力というのは分かりづらいような感じにあるのですけれども、現象面だけ捉えてしまう。4年生、5年生になると、それを分析的に行われなければならない。ただし、これは全国的にやはり弱いという傾向があって、今回の文部科学省からの学習指導要領は、こういうところを育てないといけませんというところになっていると思います。ですので、全国的に小学校5年の理科の値が上がってくるような指導方法の工夫改善を、国を挙げて行っていく段階に来ていますし、それがアクティブラーニングと言われているものの充実だと捉えています。

金丸教育長職務代理者

ありがとうございます。

ほかには何かご質問等ございますでしょうか。

中川委員、何かございますか。

中川委員

ささほど指導課長もおっしゃっていましたが、裏面の意識調査の「私は、話し合いのとき、考えや意見を進んで出している」というところが、随分低いというのを感じました。深い学びをして、それから、コミュニケーションを取る中で、友達とうまく意見交換ができるのかということをもう少し指導の中でやっていかないといけないと感じました。

指導課長

はい。指導課長です。

ここの部分は、授業の本質を指している部分だと言えます。教育委員の先生方と毎年必ず全校園を回らせていただいて、小学校、中学校を見てきていますが、すごく活気があって、いい授業だと思うものも、よく見ると、同じ子だけで意見を言って回しているというものはあるのです。なので、本来、子どもの主体性というのは、手の挙げる回数ではかるものではない。だとするならば、学びに意欲的に向かっているかということは、ノートであったり、なかなか言えなくても、心の中には持っていたりというような状態も見計らっていく必要があるだろうと考えています。

ですので、私などがよく言われたのは、授業では、教師が話すのは7分ぐらいにしなさいと。あとは、子どもが考えているか、話し合っているかというような授業だと。そういうような授業が、実際に全ての先生に行っていただけかということ、なかなかその部分が十分ではないというのが、現在の千代田区だけではない全体の傾向です。

ですので、その部分は、実は難しく、子どもたちにどんどん教え授けていくほうが、先生としては、授業は安心できる感じなのですけれども、子どもたちにあるテーマを与えて、子どもたちに任せて、そこで主体性を、自分も参加しているのだという感覚を持たせていくというのが、実は大切なところなんです。

そのためにも、1人1台体制のことというのは、子どもたちの腰が浮いて

くるというか、やったなという感じが実は持てるものになってくるのではないかというような方向を考えていますので、来年度は無理かもしれませんが、再来年度には、ここが7割か8割ぐらいになってくるところは、1つの成果の見方なのかと考えています。

中川委員

やはり先生方の意識を少し変えていただいて、子どもたちが何を感じているかというのを拾うとか、言えない子はどうしているのだろうということを、同じ立場に先生が下りてきて、一緒になって考えて、授業をつくるというふうに変えていかないといけないと感じます。

指導課長

指導課長です。

ありがとうございます。何回か話をさせていただいたかと思うのですが、実は、授業を子どもたちに任せていって、教師はファシリテーターになる。これが本当に理想的な姿です。ただし、その授業を構築していくのは大変難しいのです。そういう授業になるように、私たちは、日々、その子どもたちに問いかける発問は指示になっていないかとか、ちゃんと子どもの思考を促すものになっていないかということは、研究の中で語られてきてはいます。そこの道を修練していく職人のようなところが教師にあるということは、今後も訴え続けていく必要があると考えています。

金丸教育長職務代理人

ほかにはよろしいでしょうか。

1点だけ。私の感覚としては、時間がないから難しいのだろうと思うのですが、実は、正しいと言われている答えではない答えをしている子の考えを大切にすると、それが実は正しい答えに行く非常に重要なステップの場合というのがあるような気がするのです。だけれど、それを大切にするためには、すごく時間が要りそうにも思うので、その辺を指導の仕方では何かできるものなのでしょうか。その辺はどうでしょう。

指導課長

はい。指導課長です。

何とかできます。学校は間違えるところです。ですので、子どもたちがそういう意識の中で、間違えても、ここの間違いを取り上げてくれたのだとして、子どもは間違えても、失敗してもいいのだというところを、やはり教師や周りの大人たちがしっかりと行っていけば、そこは改善できますし、私自身の経験で言えば、私がわざと間違えて、よく見ておきなさいと。先生は必ず正しいことを教えているわけではないみたいなことをやりながら、間違えるというのは、本当に君たちにとって大切な経験なのだということを、やはり失敗から学ぶということを社会全体が考えていくのを強調していくべきではないでしょうかと思います。

正解ばかり追い求めるとか、間違えたら皆で総バッシングとか、そんな世の中ではやはり子どもも間違えるのが怖くなります。そういうふうにならないような世の中づくりというものを、やはり社会全体で考えていく。その中で、子どもを育てていく。逆に言うと、子どもをどう失敗から学ばせるかというところから、社会が、大人が考えていくということも必要なのではないかと思っています。

金丸教育長職務代理者

私はできると考えます。

ありがとうございます。

ほかには何かございますでしょうか。

もしなければ、次の件に入りたいと思いますが、よろしいですか。

(な し)

金丸教育長職務代理者

では、続きまして、令和2年特別区人事委員会による報告について、指導課長からご説明をお願いいたします。

指 導 課 長

はい。指導課長です。

それでは、お手元の資料により、令和2年特別区人事委員会による報告について、報告させていただきます。

令和2年の特別区人事委員会勧告、特別給の改定の概要につきましては、10月27日の教育委員会でご報告をして、11月24日の本委員会で幼稚園教育職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について、ご審議の上、賛成を頂きました。その後、区議会の議決を得て、11月30日に一部改正条例が公布、施行をされました。

今般、12月3日に特別区人事委員会は、職員の給与の月例給について報告を行ったので、ご報告を申し上げます。

1番、教職員の給与に関する報告でございます。月例給につきましては、職員の給与が民間従業員給与を157円、0.04%上回っていますが、比較したその差は僅少であり、給料表や諸手当の適切な改正を行うことは困難なため、月例給の改定はありません。

次に、2番、人事・給与制度、勤務環境の整備等に関する意見についてです。

(1) 人事・給与制度でございます。こちらにつきましては、人事・給与制度においては、高齢層職員の能力及び経験の活用として、定年引上げに関する法案審議や他団体の動向を注視していくとともに、特別区の実態を踏まえながら、任命権者と連携して、制度の検討を進めること。会計年度任用職員への対応として、任命権者においては、引き続き適正な制度の運用に向け、会計年度任用職員に対する人事評価の実施や会計年度単位での職の見直し等に留意すべきというふうにしております。

続いて、裏面です。(2) 勤務環境の整備等についてでございます。

アは、多様で柔軟な働き方として、テレワークの導入に当たっては、自然災害時や感染症流行時における業務継続の必要性に加え、職員それぞれのライフスタイルに応じた働き方を実現し、その結果として業務効率や生産性の向上に資する制度としていくことが重要であること。

そして、イ、仕事と家庭の両立支援として、男性職員の育児休業取得率等のさらなる向上を目指して、育児休業を取得した職員の体験談を用いた周知や職場での理解促進のための取組を継続すること。希望する職員が育児休業を取得しやすい環境づくりをより一層推進していく必要があること。

ウ、長時間労働の是正及び年次有給休暇等の取得促進として、各区におい

ては、今後、時間外・休日労働に関する協定を踏まえた適切な労働時間の管理が求められる一方で、依然として長時間の超過勤務が恒常的に発生している部署があり、より一層、超過勤務の縮減に向けた不断の取組を進めていくことが必要であると。

エ、メンタルヘルスの推進として、メンタルヘルス不調の兆候が見られる職員には、管理監督者から積極的に声かけを行い、十分話を聞くなどして、早期発見及び早期対応することが重要であるということ。

オ、ハラスメントの防止対策として、各職員が研修を通じてハラスメントについて正しく理解し、自らのふだんの言動を見返すなど、意識の向上に努めるほか、組織全体で問題意識を共有し、ハラスメント発生兆候があった際には、組織の問題として迅速に対応することが重要であることなどが述べられております。

説明は以上でございます。

金丸教育長職務代理者

ありがとうございます。

ただいまの説明について、何かご質問等がございましたら。

俣野委員。

俣野委員

まず、1番の(1)で、月例給の改定はなしということで、もうこれは結論が出ているわけですね。

指導課長

はい。

俣野委員

今、昨今の状況下の中で、働き方改革ということが幾らか緒に就いたような状況の中で、コロナ禍の影響で、先生方は過重労働になっていると思うのです。資料裏面には、勤務環境整備等の多様で柔軟な働き方が理想で書いてありますが、実際に、現状として、先生方の現場における労働環境や過重労働といったものに関しては、本区の場合、どのような状況なのでしょう。

指導課長

指導課長です。

職員の勤怠管理につきましては、昨年6月よりICカードを使って、職員の超勤時間等を調査しております。国の指針で、大体、月45時間、年間で360というようなハードルがあるのですが、おおむね毎月の時間を計算した今年度の傾向としましては、やはり6月、7月あたりは、若干、45時間を超えることが多かったのですが、9月、10月は少し安定をしてきていると捉えております。ただし、それは全体的な傾向であって、職層ごとに注視してみると、例えば、若い若手教員であるとか、初めて5年生を持つ教員であるとか、主幹教諭であるとか、一番多いのが副校長ということで、配慮をしなければならない職層があると、全体的傾向として捉えているところです。

なので、チェックはしております。

俣野委員

例えば、今、コロナ禍において、この前も新聞を見ていたら、非常に消毒や掃除というところで、先生方が結局おやりになっているという形になっているわけですね。その辺のところ、逆に言うと、区のほうで何か予算を取って、外部の方にやっていただいたり、人員をほかの面で増やしたりして、

先生方が教育に対する仕事に専念できるような対策を考えておられるということは、本区の場合はあるのでしょうか。

指 導 課 長

指導課長です。

消毒につきましては、教員が行うことが多いのですが、PTAも皆で手伝いましょうと声を上げてくれる学校も出てきております。様々な状態はあるのですが、教育委員会としては、ここの部分は何か改善をしていく必要があるだろうということで、今、計画をしているという段階でございます。

学 務 課 長

補足で、消毒について、学務課長です。

今、俣野委員からご指摘がありましたけれど、国のほうも、教員、先生方の負担軽減ということで、通知が来てございます。また、補正予算で、直近の最新情報で、補正予算でもそういう形での経費というのも来ていまして、区としては、今、ちょうど財政のほうに来年度から外部に消毒業務を委託する予算を要求しており、教育委員会としても、なるべく負担のないようにということで、対応しているということです。

それを踏まえて、議会からもご指摘等がありましたので、年度内、あと3か月ほどではありますが、そこの部分もできる範囲で負担軽減ということで、対応するように調整しているという状況でございます。

俣 野 委 員

恒常的に負担になると、やはり先生方も大変だと思いますので、ぜひ、ひとつ、予算を取っていただいて、何らかの対応をしていただけたらありがたいと思います。

学 務 課 長

学務課長です。

今の時点で、必ず取れましたと明確にご答弁できないのですが、その方向で対応させていただいているということでございます。

金丸教育長職務代理者

よろしいでしょうか。

ほかにはご質問は。

私から1点だけ。去年から学校に留守電を設置しましたが、先生方の負担というのは、相当程度軽減しているのでしょうか。

指 導 課 長

指導課長です。

留守電が一端かどうか分からないのですが、一昨年度より昨年度のほうが改善しており、労働時間としては、短くなってきています。学校からは、非常によいというような感触を得ていただいております、数字的にも下がってきておりますので、教員の声として、体感的に楽になったという印象はかなり大きいのではないのかと考えます。

金丸教育長職務代理者

ありがとうございます。

ほかには何かございますか。

(な し)

金丸教育長職務代理者

もし、ないようであれば、続いて、いじめ、不登校、適応指導教室の利用状況について、指導課長からご説明をお願いしたいと思います。

指 導 課 長

はい。指導課長です。

それでは、いじめ、不登校、適応指導教室の状況（11月末の報告）という

ことで、資料をご覧ください。

いじめの報告数でございますが、今月は1年生の未解消として上がってきたのは、プラス1。そして、6年生でもプラス1という形で、2件上がってきています。その他、解消をしたものも幾つか出てきておりますので、今年度の累計としては、全て含めて、小学校は26、そして、中学校は3、合計29という形の推移になっているところでございます。

続きまして、不登校者数です。この11月を迎えて、累積的に30日を超える子が増えてきている現状です。ですので、累計としましては、小学校では、先月と比べて、プラス10。中学校・中等の前期については、プラス5ということで、全体として、プラス15増えているという形になっています。

表からもお分かりのとおり、今年度の特徴は、小学校6年生と中学校3年生という、いわゆる節目の年度に当たる子どもたちが多く不登校になっているという現状です。ただ、この6年生は、昨年度、5年生のときも多かったという現状から、休校があった最初の頃には、なかなかいいスタートを切れていたのですが、やはり時間がたって、閉塞感も続く中で、少し前の状態に戻ってしまったのではないかとというところで、学校には一人一人の見取りをしっかりと行っていただくように、よろしくお願いをしているところです。

一方、適応指導教室の利用者数につきましては、小学校6年でプラス1、中学校2年でプラス2となって、合計11名でございます。昨年度は、大体、5名ぐらいがこの時期でしたので、ほぼ倍の状態になっています。こちらは、やはり学校や保護者に、体制として認知をしてきていただけた。昨年度、いわゆる試験入室のようなものをなくして、なるべく学校との協議の上で、早く入れるようにしていこうということや、無理に学校へ復帰させるということを目指すのではないといったような方針転換が功を奏してきている部分かと捉えているところです。

ご報告は以上です。

金丸教育長職務代理者

ありがとうございます。

中川委員

ただいまのご報告について、ご質問等ございますでしょうか。

指導課長

内容的に伺っていいのかわかりませんが、不登校者の小学1年生というのは、どういう要因なのでしょう。

はい。全体的に多いのは、環境に対する不安である、家庭環境、友達との関わりといったものなのですが、不登校者の小学1年生は学年1人だけです。この場では具体的なところは控えさせていただきます。ただ、全体としては、不安感による学校への行きづらさであるとかというものを感じているものが非常に多くて、この1年生もその中の例の1つと捉えていただければと思います。

中川委員

そうすると、例えば、3年生とか5年生も少々増えてきている傾向にありますよね。

指導課長

はい。

中川委員

そちらも同じような要因なのでしょう。

指導課長 家庭的に不安になってくると、生活リズムが乱れていく。そして、乱れたままの状態が蓄積していくと、どうしてもなかなか立ち直れないといったようなところが非常に多い傾向にあります。

2つ、大きく二分するのであれば、そういった家庭の中での生活の仕方のリズムの取り方のこと、もう一つは、学校中での人間関係に対する不安といったものが、大きな理由になってくると思います。

金丸教育長職務代理者 では、私から1点。今年度の初めの頃に、要するに、学校が止まっている状況の中で、リモートで連絡を取ることで、それまで不登校だった人とかなり連絡がうまく取れるようになってきたとご報告いただきましたよね。また増えてきたというのは、それがなくなってきたからなのでしょうか。もしくは、考え方として、ハイブリッドのような形で授業をやったら、不登校の子をフォローできるようなものなのでしょうか。

指導課長 はい。指導課長です。

不登校な状態にあっても、オンラインで子どもの顔を見るような関わりを持っていただけるといいのではないかとすることは、各学校にご提案しているところですので、必ずしも、それがゼロになったから、こういう状態になっているかという、少し理由が違う傾向にあると思っています。

実際に、自宅にいながら、不登校の状況の子がオンラインの画面で授業を見るということ、授業カウントや登校カウントには、今のところしない状況でありますので、そこをどう考えていくかということは、国も全体で今議論しているところでございます。遠隔教育というのは、基本、例えば、病気で学校に行けないような子どもたちがいる中での方法ではありますが、やはり家庭に不安があるのならば、そこを解決していく。友達との関係でということであれば、そこを解決していくというような中で、一助になることは間違いはないと思っています。

今回、1人1台でタブレットが与えられる状況になりました。こういった不登校の子にもタブレットがあるわけがございます。それによって、少し学びが変わっていくのだということを実感することが、また登校する刺激にもなってくれるといいのかと思いますし、白鳥教室の中でも、適応指導教室の中でも利用を考えていきながら、学校とのつながりを考える指導を続けていきたいと思っております。

金丸教育長職務代理者 ありがとうございます。

ほかには何かございますか。

俣野委員 そうしますと、例えば、学校に行けないけれども、リモートでやる分には、画面を通して、学校と接するということは、多々あるということになるわけですか。というのは、要するに、今の子どもたちというのは、そういうパソコンを使ったり何かしたりすることには慣れているわけで、実際、リアルで行くことは躊躇するけれども、パソコンを使って接触することはできるという、そういうことなのですか。

指導課長 はい。指導課長です。

実際には、そのように取り組んでいる学校、学校の中でも学年というのがあります。それは、やはり保護者とのある程度の合意形成をしながら成り立って行く部分ですので、そこをしっかりと進めていくというの、1つ、手としてはあるのかと思います。しっかりと校長会のほうでお知らせをして、各学校の中で、そういった1人1台体制の活用も進めてくださいというような部分については、推奨をしていきたいと考えます。

俣野委員

ありがとうございました。

中川委員

遠隔での授業はいいことなのですが、働き方改革の問題をいろいろ考えると、もしも、遠隔を全て認めてしまえば、先生の負担というのは、すごく大きくなりますよね。その辺のところ、やはり制度をきちんとつくるといことは、これから大事になってくるのではないかと思います。

指導課長

はい。指導課長です。

今、中川委員からご指摘があったことは、国の中で議論されているところですので、教員がハイブリッドによってダブルの働き方をするようになっては非常に困るということは、第一義的にあると思います。

今のやり取りの中で、私が想定していたのは、授業を見るためにその子の座席にパソコンを置いておくだけで、黒板等を映すことができるわけですよ。中で取り組んでいるのは、4人グループになったときにも、そのパソコンを置いておいて、機器を通じて授業ができるということですので、そこに関しては、それほど大きな負担ではないかと考えます。また、そういった授業を望むような子どもだった場合には、継続して行ってきていたところもあります。それが、すぐ結びついたかという、なかなかそうもいかないところもあるので、難しいところではあるというのを、年間を通して感じているところです。

ですので、各学校として、子どもたちを不登校の状況にあっても、忘れていたわけではないのだと、心配をしているのだというような伝え方、心の届かせ方はたくさんありますし、むしろオンラインでそれができれば、それはそれで働き方改革なのかもしれない。ただし、直接学校へ行って、とんとんとクラスをたたいてみるのもいいのかもしれない。そういった多様な面から、子どもたちに何かメッセージを送り続けていく。ただし、無理には登校させないというの、また1つの方向になっているところが、この数にも表れているのかもしれませんが。ですので、非常に子どもたちの内面をよく個々に合わせて見ながら、今の時代にできる対応をしていきたいと考えています。

金丸教育長職務代理者

ほかには何かございますか。

よろしいでしょうか。

(なし)

◎日程第2 その他

子ども総務課

- (1) 教育委員会行事予定表
- (2) 広報千代田（1月5日号）掲載事項
- (3) 教育広報かけはし第123号の発行

金丸教育長職務代理者

それでは、日程第2、その他に入りたいと思います。

教育委員会行事予定表と広報千代田区の1月5日号の掲載事項、教育広報かけはし第123号の発行について、子ども総務課長からご説明いただきます。

子ども総務課長

はい。子ども総務課長です。

まず、教育委員会行事予定表をご用意ください。12月22日以降の行事予定が記載されてございます。

この中で、1点、情報提供なのですけれども、成人の日のつどいについてです。こちらは、1月11日月曜日、1時からホテルニューオータニで開催される予定でございますが、今年度は、コロナ禍での開催というところで、教育委員の皆様方のご出席はなしというところですので、予定表に記入をしていないところでございます。現行のところは、まだ開催予定というふうなところで伺っております。

続きまして、裏面でございます。裏面も、せんだって出しているものからはさほど変わりはないのですが、1月13日、14日で、九段中等教育学校の適性検査出願になります。その後、19日、適性検査の応募状況の発表がございまして、という流れとなっていきます。その後は、年明けの教育委員会、こちらは初の教育委員会となります。定例会、15時からというところで、ご出席いただくというようなところとなってございます。

説明は以上です。

金丸教育長職務代理者

今のご説明について、何か質問はございますか。

よろしいでしょうか。

(なし)

金丸教育長職務代理者

それでは、続きまして、広報千代田の件についてお願いします。

子ども総務課長

はい。子ども総務課長です。

1月5日号の広報掲載原稿予定のものでございます。子ども部からは3件、通常の定例的なご案内となっております。また、地域振興部は、文化振興課から3件、生涯学習・スポーツ課のほうから4件程度の広報原稿の提出予定となっております。

今のところ、こちらについても中止というような情報は、こちらまでは来ていない状況でございます。

説明は以上です。

金丸教育長職務代理者

ありがとうございました。

今のご説明について、ご質問はございますでしょうか。

俣野委員

8番のこのジュニアスキー教室というのは、今のところはやる予定ということになっているわけなのですか。

子ども総務課長 そうですね。現段階のところ、中止という情報は入ってございません。ただ、今のコロナ禍の状況ですので、どの時点で中止の判断が下されるかというところもありますので、そこは地域振興部に確認しながら、適宜、情報提供してまいりたいと考えてございます。

俣野委員 結局、東京の人が行くわけですね。受け入れるところがどうなのかという感じがありますね。

子ども総務課長 そうですね。年末年始の行動制限もかかっている中でのことですので、年明けの感染状況等を鑑みての判断になってくるのかとは思いますが、所管に確認してまいりたいと思います。

金丸教育長職務代理者 それでは、引き続きまして、教育広報かけはしについて、お願いいたします。

子ども総務課長 子ども総務課長です。
教育広報かけはし（第123号）につきまして、こちらの掲載案及び昨年度末にお示しした年間掲載案からの変更点も含めてご説明をいたします。
一番右端の太枠の囲みの部分が第123号の掲載案でございます。1面は、当初掲載予定であったのは、ウエストミンスター交流事業というところでございます。こちらは中止でございますので、来る2月の5、6、7、8日に区役所の1階ホールで行われる連合作品展を取材し、掲載したいと考えてございます。
続きまして、2面でございますが、当初案では、学校司書が選ぶお薦め本特集と中学生駅伝大会でございましたが、中学生駅伝大会は実施いたしませんので、今般、児童・生徒全員に1人1台タブレットの配付が終了いたしますので、千代田区のICTの教育として、1人1台配付した後の活用状況を記事にしたいと考えてございます。
また、想定していた学校司書が選ぶお薦め本特集については、次年度以降の連続掲載というような形で、工夫できればと考えてございます。
3面のところなのですが、そういった形で、1人1台体制配付が済みますので、注意喚起も含めて、「みんなで守ろう！SNSルール」というところで、記事を掲載してまいりたいと考えてございます。
そのほかは、現行の年度末にお示しした掲載案と同様の予定内容となっております。
よろしくお願いいたします。

金丸教育長職務代理者 はい。ありがとうございます。
今の点について、ご質問はございますか。
よろしいでしょうか。

（なし）

金丸教育長職務代理者 それでは、教育委員から何か情報提供はございますでしょうか。
俣野委員。

俣野委員 先ほどの園内の消毒に関連しますが、先日もお話しした、12月15日の日経の夕刊に出ていた記事で、学校の掃除を委託やロボットなども活用というこ

子ども施設課長 とですけれども、この前、佐藤部長もおっしゃっていましたが、具体的に何かそういう方向に進んでいるというようなことはおありなのでしょうか。

子ども施設課長です。

複合の小学校に関しましては、清掃のビルメンテの業者が入っていて、清掃は業務委託をやっております。ですが、共用部分というのがメインになっているという現状があって、学校の専用部分に関しては、学校でやっていただくというのが現状にはなっています。

ただ、新型コロナウイルスの関係で、消毒というような話になった場合には、先ほど学務課長から回答いたしました。学校部分であっても、そういった外注に出すというような状況でございます。

ロボットに関しては、今のところ勉強中という状況です。

俣野委員 掃除の教育的な効果というのはすごく大事だと思って、今おっしゃった専有部分は、学校で生徒さんたちでやるというのは、非常に同感なのですけれども、こういう状況ですので、ひとつ、その辺のところを具体的に予算を取っていただければというのは。何しろ、先生方の負担を減らすようなことをやらせていただいて。ただ、専有部分をやはり生徒さんが掃除するという、それは落ち着いた時点ではまた復活してしかるべきなのではないのかと私は思うのですよね。掃除の効用というか、そんなことを思っております。ぜひ、よろしく願いいたします。

学務課長 はい。ありがとうございます。

あと、学校については、専用部分は、常に、今までもそうですけれども、用務員という職員がいますので、通常の、例えば、トイレなどは、その用務員の職員が対応しているということで、先ほどお話ししたのは、消毒プラスアルファというか、今までなかった業務が発生したということですので、それについては、外部への委託の方向でやる方向でございますので。

俣野委員 ありがとうございます。

金丸教育長職務代理者 よろしいでしょうか。

では、私から1点。おとといあたりから、政府で、小学校で1クラス35名以下にするというニュースが流れていますけれども、これが決まった場合に、例えば、麴町小学校をはじめとして、今かなり人数が多い学校があるではないですか。教室数は大丈夫なのでしょうか。

学務課長 学務課長です。

今年の5月1日現在ということで、35人になった場合という形で数字、ちょっと学年進行がないという報告になるのですけれども、結論から言うと、麴町小学校については、3クラスというか、1・2年生については、区内は小学校35人でやっていますので、3年生以降についても、基本的には、麴町小学校は、例えば、口頭でご説明すると、1年、95名なので、3クラスあります。今、2年生が101名いますので、もう3クラスなので、35で割ったとしても、これです。あと、3年生が84名いるので、これももう3クラスでやっていますので、基本的には、麴町小学校については、今年で1年生から6年

生まで35人学級にしたとしても、今、18クラスで、もともといっぱいなのですけれど、そういう形になってくるので、増えるということはないです。

ちなみに、口頭でご報告のみしてしまうと、九段小学校については、40から35に、仮に今年の数で変えた場合には、今、15クラスなのですけれど、3クラス増ということで、3年生と5年生と6年生がそれぞれ2クラスなのですけれど、3クラスにせざるを得ないというような状況です。あと、番町小学校も13クラスから14クラスということで、1クラス増える。あと、富士見小学校についても、14から16で、プラス2クラス。あと、お茶の水小学校についても、10クラスから12ということで、2クラス。あと、昌平小学校については、9から10ということで、1クラス増えるということで、全体で9クラス増という、小学校8校に対して、全体で9クラス増ということで、そういう意味での影響は出てくるということでございます。

金丸教育長職務代理人

要するに、もちろん増えるという影響はあるにしても、今の校舎の中で何とか収まり切る範囲と考えるとよろしいのでしょうか。

子ども施設課長

子ども施設課長です。

麹町小学校に関しては、対応していているということは言えます。今聞いていたところですが、富士見小学校が16ということで、来年の夏休みに18まで対応ができる形になりますので、一応、文科省では、年を追ってというような形だったので、それを見ながらにはなりますが、一気にということであっても、今聞いた限りでは、対応はできているかと思えます。

ただ、教室だけやればよいということではないので、少人数の学習をやる教室がなくなってしまうというような状況もあります。その場合は、普通教室に転用するという形になってくるのかと思えますので、状況を見ながらやっていきたいと思えます。

金丸教育長職務代理人

ありがとうございます。

ほかには何か。

中川委員

今の件ですが、やはり教室はスペースとしては増やすことができると思うのですが、それでしわ寄せを得てしまう部分というのが結構大きいのではないかと思います。そのあたりをやはり考えないと、大変だと思っております。

教育担当部長

すみません。今までも、これまでもずっと教育委員の先生からご意見いただいでいて、今の状況でも、ハード的にはなかなか難しい中で、35人学級というのが、文部科学省と財務省で一応手を握って、そういう方向で進むということになったのですが、これまでも特別区の区長会や議長会、全国連合小学校長会や全日本中学校長会など、皆、押しなべて35人学級を推進してほしいということを書いてきたのです。ただ、もう本当に都心区の学校は、全国レベルで比べると、押しなべて統一的にそういうふうにも言われても、実態として、難しいところがあります。

萩生田大臣も、八王子ですが、東京都の選出の議員さんから大臣になられているので、教室不足の問題についても言及されており、それについて

は、今後、文部科学省でどういう通知だとか、説明会等もあるとは思いますが、すけれど、財源も含めて、何らかの支援がないとやっていけないというのは、もう明らかで、しわ寄せが来てしまいます。ですので、そうなったら、狭い校庭の中にプレハブを造るしかないという形になってきます。

従前も言っていますけれども、中長期的にはいろいろ考えなければいけないところがあって、新しく学校を造るなど、いろいろあるとは思いますが、1年ごとに、学年を上げていってという中で、どう対応するかというのは、また教育委員会の中でも、いろいろご意見を頂いて進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

金丸教育長職務代理人

よろしいでしょうか。

俣野委員。

俣野委員

これは、新聞の記事なのですけれども、小学校の9割が既に35人以下となっているのですけれども、本区の場合はどうなのですか。

学務課長

そうですね。キャパシティ的には、例えば、80人ですと、現状40人の2クラスですけれど、35人学級となると3クラスといった形で、学校によっては、微妙な状況が出てきます。影響を受ける9クラスというのが大きいかどうかというのはありますが、先ほどご説明したように、仮に35になったとしても、今現在は、学級数が8校全体で103ですので、そこから9クラス増えるとすると、影響を受けるのは1割ぐらいということで、逆算すれば、9割は大丈夫というような考え方もできるのかとは思っております。

俣野委員

はい、分かりました。

金丸教育長職務代理人

よろしいでしょうか。

もしよろしければ、本日の定例会は、これをもって閉会にさせていただきたいと思いますが、よろしいですか。

(了 承)

金丸教育長職務代理人

皆さん、どうも、今日もありがとうございました。